JCI 一般社団法人 武雄青年会議所

発行 (一社)武雄青年会議所
住所 武雄市武雄町富岡7719 武雄市商工会議所内 ☎0954-23-4333
発行エリア 武雄市・嬉野市
発行部数 20,400部
編集 2018年度広報戦略委員会
http://www.takeo-jc.jp

一般社団法人武雄青年会議所 二〇一九年度 理事長 所信

一燈照隅 ～和を胸に～

第53代 理事長
石丸 太郎

はじめに

時代を小説に例えるならば、「平成」という物語はエピローグへと向かい、新たな物語のプロローグが幕を開けようとしています。

戦後復興期、当時の青年たちは戦争により多くの仲間や同級生、先輩後輩を失い２３０万人もの犠牲を払った失意の中に日本を再建しなければなりませんでした。復興に向け各方面の運動が活発になる中、１９４５年９月３日「新日本の再建は、我々青年の仕事である」と宣言された東京青年商工会議所（東京青年会議所の前身）48名の「明るく豊かな社会の実現」の情熱は全国各地へと拡がり、１９６７年に全国で３６３番目のＬＯＭとして武雄青年会議所が創立されました。以来「より美しく、より豊かに、より正しく明るい社会になること」を切望する精神は、半世紀以上の時を経た今も胸に深く刻み込まれ受け継がれています。この創始の精神と礎の襷を連綿として継承していく為に、２０１６年、私たちは「創立50周年記念提言」を提唱し、これからの10年、そして未だ見ぬ未来への想いを「6つの運動指針」として掲げました。本年、平成が終わりを告げます。社会の構造が変わりゆく新たな時代の幕開けを迎えます。「新現代の日本の創造は、我々青年の仕事である」ことを基軸とし、「創立50周年記念提言」「6つの運動指針」が根幹をなして展開する私たちの物語の第53章を始めましょう。

一燈照隅 ～和を胸に～

自灯明という言葉があります。ご存知のように「他者に頼らず、自らを拠りどころとしなさい」という釈尊の教えですが、人は皆、自分という灯火を携えて、この先見えない暗闇のような人生を自らの居場所を照らしながら生きなければならないと説かれました。現代社会においての灯火とは何か？を考えた時に、社会の成長は連帯や連携、あるいは合意や合併から成立していることに改めて気づき、その仕組みを紐解くと一燈照隅という言葉に辿り着きました。人が持つ心の灯りを力点と考えるとするならば、人の成長と共にその灯りが輝きを増し、やがて、隣の誰かへと点じて大きな灯火となって繋がっていきます。私たち一人ひとりが携えている灯りは、大きくて明るいものではないかも知れませんが、小さくとも力強く、まずはしっかりと自らの居場所を照らす灯りであって欲しい。この灯りがやがて私たちの住み暮らす地域をそして日本を明るく照らすと確信してやみません。もちろん、世の中に変化・変革をもたらすことは容易ではありません。

しかし、歴史において、世の中の変化・変革の始まりは、誰か一人の心の高まりが周囲に影響を与え、一つの声を生み出し、その連鎖が大きなエネルギーへ繋がっていったことは紛れもない事実です。私は、この連鎖の作用こそが、今の私たちに求められる気概と覚悟であると確信し、今年度のテーマを『一燈照隅 ～和を胸に～』と掲げました。この言葉は、伝教大師・最澄が「山家学生式」の冒頭に「照千一隅 此則國寶」と書き記したものを、戦後日本の首相の指南役と評された安岡正篤氏が表現した言葉で、正しくは〝一燈照隅 万燈照国〟と続きます。「一つの灯りは、隅しか照らせないが、万の灯りは国全体を照らすことができる」ことを言い表し、転じて解釈すると「一人ひとりが自分の役割を懸命に果たすことが、組織全体にとって最も貴重である。」ということに繋がります。

青年会議所の会員資格には、20歳から40歳までという年齢制限があります。この組織特有の性質は常に所属するメンバーの新陳代謝が繰り返されることにより、20年の年代層が同じ目的を持って関わる中で必然的な人材育成が行われる。これが、それまでと違った灯りを生んでいるのだと思います。私自身、多くの先輩たちの背中を追いかけて様々な学びを得てきました。そして、気が付けば40歳を目前に控え、後ろを振り向くと若いメンバーが若き日の私と同じように、背中を追いかけて来ています。しかも、眩しい。今の私は、自らの灯りを彼ら以上に力強く照らし、連綿と受け継がれてきた志や魂を伝播し、次代への襷を繋ぐ責任があると同時に、入会して来る小さな灯りを、大きな灯りへ、燈し続ける灯りへ、そして点じる灯りへと育てていく担いがあるのだと感じています。

人は自らが経験してきたこと以上のことは想像でしか語ることが出来ません。幸いにして、私はＬＯＭでの経験に加え２０１３年度からは佐賀ブロック協議会出向の機会にも恵まれ、活動のステージが拡がることで初めて見る景色と見える景色を経験しました。この経験値は今の私を支える大きな糧となっています。

昨年度、武雄ＪＣは11年ぶりに佐賀ブロック大会の主管を担い準備中は不慣れな環境の中にあってそれぞれに苦労もありましたが、一人一役の担いを各々が責任をもって果たし大会を成功裡に収めることができたこと、メンバーがＬＯＭの活動だけに留まらず、俯瞰的な視野を養い成長する機会を得たことは私にとって何よりの喜びでもありました。この経験をきっかけに、是非とも多くのメンバーに積極的な姿勢で新たなステージへ挑戦し新しい灯りを燈して欲しいと思います。人は自分の能力を遥かに超えるものを求められる環境に身を置いた時に初めて成長していくものだと考えます。未だ知り得ない自らの潜在能力が初めて身を置くそのステージで見つかるでしょう。ブロック協議会のみならず、九州地区協議会、日本青年会議所、ＪＣＩ、与えられたチャンスに大いに可能性を見出しましょう。

結びに

「青年会議所との出会いは、偶然ではなく、引き寄せられた必然であった。」

私は、大学を卒業の後、家業を承継すべく武雄へと帰郷しました。学生生活を終え数年振りに故郷の土を踏めたことへの喜び、戻ってくる場所を守り、暖かく待っててくれていた両親への感謝、そして、自分自身が恵まれた環境に置かれていることを痛感しました。もちろん、感傷的な気分に浸るのも束の間で、慣れない仕事を覚えることが精一杯の日々がスタートし、同時に後継者としての心構えを求められ、これからの会社をどうしていくのか、自分自身がどのような人間になるのか、答えのない自問自答を繰り返す毎日でした。そんな折に、ある先輩との出会いと歴代理事長でもある父の勧めもあって青年会議所の扉をノックしたのです。座右の銘に、『男の人生、友達探し』を掲げていた当時の私には絶好のタイミングと、最高の居場所だと感じたように記憶しています。入会したことで、多くの仲間に出会うことが出来ました。同じ世代でありながら、様々な人生観をもった仲間、卓越した発想力と行動力で他を牽引する仲間、どの仲間との出会いも私の人生に心地よい刺激と健全な競争心を与えてくれました。どこまでも眩しく輝く仲間たちの灯火の光に導かれたのでしょう、「何か一つでも学び取りたい」そんな一心でＬＯＭの事業はもちろん、その後の懇親会にも必ず参加し、酒を酌み交わしながらの会話にも勉強になる事が沢山有って、これもまた私にとっては代え難い貴重な時間でした。よく考えてみれば、これらの出会いは偶然でなく、求めたからこそ手に入れることができたもの。「必然」だったと気付きました。人にはそれぞれ個性があり、役割があります。多くの個性や役割と出会うことは新たな自分と出会うチャンスでもあります。そして、その出会いを求めるからこそ訪れる。私たちの灯りが、昨日よりも今日、今日よりも明日とより輝きを増して光を放つことを信じて、２０１９年度、共に力点となりながら力強く歩みを進めましょう。求めればやってくる。必然的に出会う。信じよう。自分の信じる道を行く人にしか見えない風景がきっとある。胸を張って、キミらしく、いこう。

基本方針

一、未来を担う子供たちを暖かく照らせ（青少年）
一、武雄の未来を明るく照らせ（まちづくり）
一、自らが光明となれ（次世代リーダー育成）
一、あなたと一生の付き合いがしたい（会員交流）
一、唯一無二の存在であるために（総務広報）

未来を担う子供たちを暖かく照らせ

私たち青年会議所に所属する20～40歳の世代は、概ねゆとり世代（22～31歳）とミニマムライフ世代（30～38歳）に該当します。定義には諸説ありますが、社会背景を含めて成長過程の環境がイメージできる〇〇世代という表現で過去を振り返ると、青年会議所発足当時の世代は、大正世代・昭和一桁世代。武雄青年会議所の創立時の世代は、昭和一桁世代、焼け跡世代、戦中生まれ世代、全共闘世代、団塊の世代と5世代に分かれます。それぞれの世代については各々お調べ頂くとして、いかに激動の時代を過ごしてきた先輩達であったかは想像に難くありません。当時、今の私たちと同じ年齢の青年が、地域の振興や日本の将来を確かな方向へ進めるためにどうすべきかを語り、数多くの灯りが集まって大きな灯りとして子や孫が置かれる将来や子供たちの未来について創造していたものと推測します。では、私たちの時代の子供たちを健全に育むにはどうすべきか、最も多感で感受性の強い時期にあるこの子達をどのように導けばいいでしょうか。人口減少が著しく、少子化が国家の大きな問題として取り上げられる昨今、子供たちの存在は宝であり未来への大きな投資ですから、子供たちの成長に寄与することは、必然的に取り組む事業であり、特に自主性をもって夢や目標を抱く契機となる機会を創造したいと考えます。

私たちの世代は、自身を縛る状況を極端に嫌い、一定の生活水準を保ちたい世代、堅実で安定した生活を求め、無駄がなく自分に心地いいものを求める世代と評されています。物質的に恵まれた環境で育ってきた世代の私たちは、子供たちに伝えるべきものが沢山あります。子供たちの自主性や継続力を育み、何事にも挑戦する気持ちを養っていくことで明るい未来の創造を子供たちと共有していきたいと思います。

武雄の未来を明るく照らせ

私たちは、武雄の魅力を熟知しそれを上手く伝えることが出来ているでしょうか。田舎暮らしに関心がある人向けに情報を提供している『田舎暮らしの本（宝島社）』では、毎年様々な世代へジャンル分けしたアンケートを実施し、「住みたい田舎ベストランキング」を発表しています。そのランキングで、武雄市はこれまでに２０１６年度の3位を筆頭に幾度となく上位に名前が挙がってきました。このことから、全国的にも移住先として着目され高い人気を誇っている事実が伺えます。しかしながら一方で、全国的な人口減少の大きな波に飲み込まれているのも事実です。

２００６年、１市２町が合併し、武雄市は人口５１，９４７人で新たな舵を切りました。それから10余年が経過し、２０１８年の統計において人口４８，２６３人と実に３，６００人余りが減少しています。この減少率を大きいと捉えるのか、踏み止まっていると捉えるのか解釈は様々だと思いますが、厚労省が発表した２０１７年度人口動態統計における合計特殊出生率は１．４３となっており、今後、人口がさらに減少していくことは避けられない状況のようです。

しかし、想像してみて下さい。人口が減少しても個人の生産性や所得・収入の増加が実現すれば、まちは魅力的な町になるのではないでしょうか。実現するためには、現実をしっかりと受け止めて建設的な考えで前を向くしかありませんが、理想を語るより足元を整理して次の一手を考えることが今は大切なのではないかと思います。国家レベルの課題に対して、私たちが講じる手立ては微力かも知れませんが、思考を柔軟にして地域的なレベルの課題にすり替えて対峙していくことが求められていると考えます。創立50周年記念提言において「武雄に集まり・武雄に留まるまちづくり」を推し進めることを宣言しました。本年度も引き続き行政と手を携えながら、武雄市が有する潜在的な魅力と、時代を先取りした仕掛けや仕組みを考え、定住促進、人口増加そして生産性の向上へとつながる運動を展開します。民間の立場から、青年の観点から、武雄の未来に明るい一灯の光を燈すべく努めてまいります。

自らが光明となれ

１９５０年５月、現在の日本青年会議所の前身となるＪＣ懇談会が開催され、ＪＣ運動の行動綱領として、「修練」「奉仕」「友情」の三信条が採択されました。その翌年には日本青年会議所創立に際して、この三信条が定款へと記されました。私たちの青年会議所における運動は、この三つの信条に基づき形成されていることを忘れてはなりません。近年、武雄青年会議所への入会年齢は上昇傾向にあります。この傾向は全国的に見ても同様で平均在籍年数は4年5ヶ月とのデータが出ています。ということは即ち、短い在籍期間の中で青年会議所について深く理解し、効果的に集約して活動すること、尚且つ効率的なリーダーシップが発揮できるようになることが求められています。だからこそ、あらゆる事業の機会に積極的に触れ、自ら自己の成長を求める強い向上心が必要です。自分自身が成長することは周囲に好循環を生み出すことは言うまでもありません。勿論、成長によって身に付けた知識や智慧、形成した価値観は生活基盤である仕事や家庭に大いに還元する必要がありますが、メンバー達の連鎖が他の誰かへ繋がって大きく広がることは、私たち自身の生活基盤はより強固なものに、経済基盤はより磐石なものになり、目標である明るい豊かな社会づくりに寄与していくものだと確信します。また、自己の成長の度合いは他者と比較するものではなく、自己が理想とする自分と現在との比較です。その際に感じたギャップや葛藤を突き破ってこそ成長した自分に出会えるのです。

こうした結果、似たような価値観の持ち主が集まって集団を形成しようとすることは自然な流れです。「会員拡大こそ青年会議所運動である」という言葉を耳にしたことがあると思いますが、この言葉には、年間を通じて行う事業に新たな息吹が吹き込まれることで、そこから広がった輪が新たな波紋を作るという真意があることを理解しておかなければなりません。一人の新たな仲間が加わることは〝プラス１〟ではなく、その家族や周りの知人友人、さらには地域の人達にも伝播させることに繋がるので無限の広がりや可能性を秘めています。そうした観点から、会員拡大とは単純に会員数を増やせばいいのではなく、同じような価値観を持つ者が社会活動を行おうとする際の根本的で普遍的な活動であることを常に忘れてはなりません。組織の維持・運営・事業内容の構築においては一定数の会員が必要であることも紛れもない事実ですが、何より魅力的な集団の形成が第一の目標であるわけです。自分の灯りが個へ、集団へ伝播することを理解し、共有して欲しい。私たちはまだまだ未熟で成長過程の最中です。自らの灯火をより輝かせるために青年会議所における修練の機会を積極的に掴みながら、自己が理想とする自分、皆に目標とされるような自分へと成長するために、自らが壁を作るようなことになってならないと思っています。

あなたと一生の付き合いがしたい

一生涯で心からの友達だと呼べる人に出会えることはそう多くないと思います。それは恐らく、共に過ごした時間の長さだけではなく、その密度と距離感、心と心のぶつかり合いが求められるからだと思っています。そう考えると青年会議所の環境は、心からの友達に出会う可能性を大いに秘めた学び舎ではないでしょうか。私たちの活動では、常に確固たる目的を掲げます。その目的に向かって、メンバー各々が一切の妥協を排し侃侃諤諤と意見を戦わせ、最良の結果を得るために万全の方策を模索します。時には悩み苦しみ、時には喜び、メンバーと共に、そのプロセスを経ていけば次第にベクトルが一致していきます。このサイクルこそが青年会議所特有の仲間との強い絆、汗と涙と魂が宿った繋がりを生むのです。また、この環境は長い歴史によって育まれたものであることを忘れてはいけません。30や40歳年上の人や県外の人でも「ＪＣ出身」と聞けば自然と共通の話題や会話が生まれるもので、青年会議所自体の長い歴史と、全国組織としての伝統の産物だと思います。

「あなたと一生の付き合いがしたい。」この言葉は、3年前に会員拡大に訪れた先で、先輩が候補者に対して口説かれたワンフレーズです。私は、この言葉に心を打たれました。字面では上手く伝えることが出来ませんが、その言葉を発する先輩の表情には、揺るぎない覚悟と信念が見えたのです。それ以来、私は活動の中で、まずは一生の付き合いができる自分を探し出すことを目標として掲げました。

縁あって同じ時間に同じ行動をして価値観を共有する仲間。お互いが自分自身にとことん惚れて欲しいと欲し、青年会議所活動の全てに惚れて欲しいと欲す。私は、奉仕団体の組織活動でしか味わえぬ貴重な時間に真剣に向き合って欲しいのです。さらに欲を言えば、世代を超えた交流に目を向けて欲しい。そして、どんな困難や苦境に晒されても消えることのない友情の灯火を一つでも多く燈して、より強固な結束を携えた真の仲間づくりを目指したいのです。

唯一無二の存在であるために

私たちは一般社団法人という社会的に認められた法人格を有する組織である以上、守らなければならないルールや約束が存在します。それらを遵守し、仲間や友人、地域や他団体からの信頼と負託に応える必要があります。そのためには、メンバー一人ひとりがガバナンスの意識を高め、自分が置かれている環境や立場を客観的に理解し得なければなりません。青年会議所とは文字通り会議に重きを置いた組織です。会議の質を向上させる努力は不可欠な要素であり、その先にある全ての物事の完成度を左右すると言っても過言ではありません。メンバー全てが主体的に関わり、より精度の高い意見を導き出す会議運営を心掛けます。また、議決した事項については、組織体系やガバナンスに基づき全メンバーの積極的な参画を促して、諸事業に参加させることにより士気を高めていきます。

一方では、財務体制の健全性も担保しなければなりません。会計基準のルールに則り適正な予算計上と決算処理が行える体制を構築します。さらには、各種事業における費用対効果についても十分に精査し、限られた予算を有効に活用できるようにして、高次元の費用対効果を求めます。

私たちが地域や他団体からの信頼や負託を得るためには、積極的な情報公開と戦略的な広報活動が必要です。半世紀以上の歴史と、数々の実績を有する武雄青年会議所ですが、まだまだ市民の皆さんへの認知度が熟しているとは言い難い場面も見られます。インターネット環境が普及した昨今、紙媒体のみならず様々なコンテンツを通したあらゆる広告物が溢れていますが、その中に埋もれることなく、何気なく見ている人の心に赤々とした火を燈させることができるようになりたい。そのために戦略的な広報や信頼度が高く知的要素を含んだ情報発信に努めます。これまでのネット媒体をさらに充実させることは勿論、その他の有効な媒体も活用しながら、地域における認知度向上とブランディングの強化に努めます。そして、私たちの運動や存在が唯一無二という評価を頂けるような大きな運動に繋がるよう仲間とともに歩みます。

直前理事長挨拶

2018年度
第52代 理事長
神近 友樹

新年明けましておめでとうございます。

日頃より一般社団法人武雄青年会議所の活動に対し、ご支援、ご協力を賜りまして心より御礼申し上げます。

昨年は、「勇猛果敢～共に挑む、未来～」のテーマのもと、活動を展開致しました。まずは、11年ぶりに主管としてメンバー一丸となり取り組んだ「第43回佐賀ブロック大会in武雄」を始めとしまして、「市民の皆様と共に学ぶ広報事業」の開催、そして佐賀県初のワークライフバランスコンサルタントであられる福成有美氏によるご講演や妊婦体験を実施いたしました。さらに、会員拡大を目的とし、樋渡社中代表であられる樋渡啓祐氏によるご講演や会員拡大候補者との交流会を開催致しました。また、子育て世代の方々を対象に「大人が変われば子供が変わる」と題してヨコミネ式で有名な横峯吉文氏によるご講演を実施致しました。そして、市民の皆様の声を行政へ伝えるため昨年で八回目を迎えました「市民討議会」を行いました。さらに、日頃よりスポーツや他分野で光り輝く子供達を地域全体で応援する環境を構築するべく武雄人間力大賞授賞式を開催するなど、一年間を通して「明るい豊かなまち」の実現につなげるために全身全霊をかけて活動に邁進致しました。

また、これまで一般社団法人武雄青年会議所の歴史を築いてこられました諸先輩方々との交流や研修の時間を通して貴重なご意見、アドバイスをいただき、今後も武雄青年会議所の活動を武雄市において永続的に発信続けていかなければならないと強く感じました。

そして、理事長という大役を務め、色々な経験の中で数多くの学びを得られ充実した1年間を過ごすことが出来ました事心より感謝申し上げます。

結びになりますが、２０１９年度も我々一般社団法人武雄青年会議所の活動に対しまして、これまで同様のご支援、ご協力の程何卒宜しくお願い申し上げます。

新入会員紹介

第一生命保険株式会社 嬉野営業オフィス **池田 直樹**

この度、入会致しました、池田直樹と申します。青年会議所の事は右も左もわからない若輩者ではございますが、持前のフレッシュさで新風を吹かせていきたいと思います。宜しくお願い致します。

九州ひぜん信用金庫 **大島 拓也**

ＪＣ活動を通し、武雄の魅力を一つでも多く発見し、武雄の魅力を多くの人たちに知ってもらえるよう頑張ります。

武雄市役所 **草場 章徳**

入会してから９か月が経ち、ようやく正会員となりました。ご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、今後とも武雄のまちづくりのために皆様とともに活動してまいりますので、何卒よろしくお願い致します。

㈱井上 アクロスウィル武雄斎場 **樋口 盟洋**

ＪＣ活動を通し、「魅力ある地域づくり」「次世代を担う子供達が誇りを持てる町づくり」に微力でも貢献できるよう頑張りたいです。

ＶＡＮＩＬＬＡ **森 勝隆**

エタニティビル3階のＶＡＮＩＬＬＡをやってます森勝隆と申します。少しでも皆様のお役に立つように努力して参ります。今後ともよろしくお願いします。

2019年度 役員紹介

直前理事長 **神近 友樹**

残り３年のＪＣとなりました。残りの３年間は、私を成長させてくれた武雄ＪＣへ恩返しする年と位置付け、組織のサポート・会員拡大に全力で取り組んで参りたいと考えております。2019年度もどうぞ宜しくお願い致します。

副理事長 **本多 祐里**

次世代リーダー育成委員会と会員交流委員会の担当をします。両委員会は、会員のスキルアップと友情や繋がりを育む環境を創る委員会であり、理事長の想いを実現し、委員長が充実した一年を送れるようサポートします。

副理事長 **大宅 基太**

野畑委員長とともに武雄のまちづくりについて行政、市民の皆様と一緒になって考える機会を創出し、一人でも多くの方が自分のまちのことを真剣に考えるきっかけとなるよう取り組みます。一年間よろしくお願い致します。

副理事長 **小島 雄介**

会員皆で地域のために夢や希望を持ち、感謝の気持ちを胸に頑張っている子どもたちの育成に寄与し、地域の方々と想いを共有し、青少年育成に邁進致します。宜しくお願い致します。

専務理事 **前田 純次**

理事長を補佐し、メンバー全員と綿密なコミュニケーションを図ることで仲間意識を築き、円滑で活発な組織運営に努めてまいります。一燈照隅のスローガンのもと、感謝の心でＬＯＭ全体がひとつになり、組織が地域に必要な存在としてさらに成長していくよう活動してまいります。

総務広報委員会 委員長 **深町 恵介**

今年度は4回の総会、年通してSNS等含めての広報、予算管理、各種大会への参加推進、理事会の運営、災害対応窓口等を行います。どうぞよろしくお願い致します。

青少年育成委員会 委員長 **弘田 傑**

青少年育成委員会では、メンバー間の役割を含め強い気持ちを持ち、今年度の活動を行って参ります。各事業を通じ、地域に住む大人たちから子供たちがふれあいも持て地域の繋がりが生まれ、夢や希望が育まれように邁進して行きます。

まちづくり委員会 委員長 **野畑 龍一**

主事業である市民討議会は9年目を迎えます。今年はまちの景観の中から地域の公園に着目し新しい価値を考えます。53年の歴史に誇りを持ち日々活動しております。沢山の方とお会いできる1年になれば嬉しいです。

会員交流委員会 委員長 **山下 貴好**

今年度は、ＯＢの方との繋がりやメンバー同士の交流で友情を深める事業を行いますのでよろしくお願い致します。

次世代リーダー育成委員会 委員長 **松尾 俊吾**

当委員会では、青年会議所メンバーとして、また社会人として成長する事業を開催していきます。一年間、宜しくお願い致します。

監事 **宮原 斉範**

一年間、一般社団法人武雄青年会議所の為、監事の職を全うして行きたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

会員紹介

50音順 敬省略

所属	氏名
㈲スワン	姉川 拓司
第一生命保険㈱嬉野営業所オフィス	池田 直樹
㈱ソアー	石隈 桂太
㈲武雄衛生	石丸 太郎
㈲岩永鉄工所	岩永 明輝
大宅自動車	大宅 基太
神近建築	神近 友樹
武雄市役所	草場 章徳
弘田鉄工所	弘田 傑
㈲カーセンターラポール	小島 雄介
福母八幡宮	佐藤 美波
㈱下建設	下 今朝央
㈲関セメント工業所	関 知昭
政府登録国際観光旅館なかます	田中 隆広
土橋産業㈱	土橋 央
心源	中島 誠吾
すなっく 美笑	西ノ首 龍希
㈲信成開発	野田 勇
朝日I&Rリアルティ㈱	野畑 龍一
東建設	東 公一
㈱井上 アクロスウィル武雄斎場	樋口 盟洋
西九州観光バス㈱	深町 恵介
福田建設	福田 修
アフラック募集代理店	本多 祐里
前田製畳所	前田 純次
㈱シンセイ	松尾 俊吾
松尾板金	松尾 剛
㈱馬渡商会	馬渡 洋平
九州ひぜん信用金庫	溝口 敦士
リベラーレ	峰松 正行
㈱宮原建築企画	宮原 斉範
VANILLA	森 勝隆
串心 鵺（ぬえ）	森上 瞬
独楽	山口 博文
㈱山下ワイズジャパン	山下 浩司
㈲武雄清掃	山下 貴好
西九州総合法律事務所	行武 謙一
事務局員	力安 ゆかり

武雄青年会議所 HP・Facebook 50周年記念誌はこちらです。

H P　Facebook　50周年記念誌

アンケートの内容は1分程度で終わる内容です。何卒アンケートのご協力をお願い致します。本年も青年会議所活動にご理解とご協力をお願い申し上げます。

市民アンケート～アンケートにご協力をお願いします。

一緒に活動しませんか

武雄市内外の様々な方と事業を通し、同じ目標に向かって共に行動する事で、人脈が広がるだけでなく自分自身が成長できる事ができます。

新入会員入会の様子